

平成12年度第4回生物物理学会運営委員会議事録

日時：7月1日13:00～18:15

場所：愛知県中小企業センター8階2会議室

出席者：郷(通)会長、木下副会長、七田副会長、阿久津、片岡、木寺、桑島、白井、曾我部、田之倉、豊島、船津、倭、由良各運営委員、石渡編集実行委員長、鈴木 H12 年会実行委員長代理、柳田 H13 年会実行委員代表、河合会長秘書

欠席者：月原、都甲、難波各運営委員

報告事項

(1) 賞・助成金推薦委員会報告 (七田) 資料 報1

七田副会長より山田科学振興財団研究援助へ赤坂一之氏を、ノバルチス研究集会援助へ ICBP2001 を推薦したとの報告があった。郷会長より、本学会は学会賞がないので外部の賞に積極的に推薦したいとの発言があった。

(2) 生物物理若手の会夏の学校援助金について (郷) 資料 報2

郷会長より生物物理若手の会夏の学校への援助金について、若手の会会長の要請に基づき10万円を援助することとした。援助額は従来20万円、去年は30万円であったが、学会財政も考慮のうえ上記金額に決定した。

(3) 生物物理バイオインフォマティクス講習会について (木寺) 資料 なし

木寺委員より生物物理バイオインフォマティクス講習会について、広告を「蛋白質・核酸・酵素」など計6誌に掲載要請中との報告があった。講習会実施は11月18日～19日。講習会の詳しい内容は今後講師と相談の上決められる予定。

(4) ICBP2001の準備状況 (木寺) 資料 なし

木寺委員より ICBP2001 プログラム委員会が開催されたとの報告があった。セカンドサーキュラーは7月中に配布される見通し。閣議において ICBP2001 の日本学術会議共催が決定された。

(5) 生物科学学会連合第4回連絡会議報告 (木下) 資料 報5

4月13日に開催された上記会議について木下副委員長より報告があった。実験動物管理の問題について、鳥類・は虫類はもとより今後魚類も含めたルールづくりが求められているという問題提起があった。学会誌に発表される論文についても、倫理規定に則っているという一文を付け加える必要があると考えられる。連絡会に参加する学会は毎年5000円の参加費を支払うことになっているが、現時点で徴収されていないので今後支出の必要がある。

石渡編集実行委員長より実験動物管理について、「実験動物の扱いについては所属機関のルールに従っている」との一文を学会誌に掲載すべきかとの質疑があり、掲載することとした。

(6) 第17期第8回生物物理学研究連絡委員会報告（郷）資料 報6

郷会長より5月15日に開催された上記委員会議事録に基づいて報告があった。

以下は研連委員会における報告事項。

- ・東アジア生物物理学学会シンポジウムについて。5/22-26 韓国の慶州で開催された。
- ・5月6日、ICBP2001 幹事会が開催された。
- ・平成12年度代表派遣について、永山委員が推薦され採択された。

以下は研連委員会における審議事項。

- ・科研費審査員の推薦について。今回から制度の変更に伴い科研費委員の推薦が研連を通して行われることになった。1大学からは2人までの決まりがある。来年度は今年漏れた学会から審査委員が出される様に配慮するが、やむを得ず同一学会から採択される場合も考えられる。
- ・2002年ブエノスアイレス生物物理国際会議招待講演者推薦手続きについて。永山委員から、永山委員を補佐する人を2名程度推薦して欲しいとの要請があった。
- ・分子レベルの構造生物学振興・推進小委員会の報告書について。報告書案が運営委員に送付された。この案について意見があれば郷(信広)研連委員長まで連絡する。
- ・分野紹介。蛋白質科学会設立の動きについて田之倉委員から紹介があった。
- ・学術会議等における女性の役割を積極的に増やすことについて。例えば、上記の分子レベルの構造生物学振興・推進小委員会では18名のメンバー中女性

科学者が一名も含まれていないなどの点からも、学術会議における女性科学者の環境改善の取り組みにも関わらず、いまだ不十分であるとの指摘がなされた。

・東アジア生物物理学会シンポジウムがカバーする地域を広げる問題について。参加国をインド・オセアニア地域に広げた方がよいのではという意見があり、韓国で開催された東アジア生物物理学会シンポジウムにおいて参加国拡大について提案された。参加国拡大については継続して審議されることとなった。次回シンポジウムまではインドは招待国として参加する予定。シンポジウムについて学会誌に報告を掲載するべきではないか

との意見があり、永山氏に紹介記事の執筆を依頼することになった。

・次期研連委員の選出法について。現在9名が生物物理学会の推薦で選出されている。生物物理学会からの推薦枠は10名で、他5名が関連学会からの推薦による。

(7) 物理学会年会の共催について (倭) 資料 報7

倭委員より毎春の物理学会年会・分科会の生体物理分科の生物物理学会共催について以下の報告があった。2000年まで生物物理学会との共催とするとの取り決めがあったが、現在、延長する方向で話合いが進められている。共催の利点として、物理学会員でなくても講演が可能であるなどの点がある。無期限延長とする意見も出されたが、結果として2005年までの延期が提案され、5月30日付けで物理学会運営委に於いて審議されているが、上記の案で承認されるであろうとの見通し。

(8) 平成12年度年会準備状況 (鈴木) 資料 報8

鈴木 H12 年会実行委員長代理より以下の報告があった。

・UMIN による講演申し込みは、6月5日正午まで延期され、最終的に865件の申し込みがあった。

・予稿集前付けとなる「年会案内と注意事項」の原稿案を作成した。

・展示・広告について。運営委員会の時点で広告収入は378万円。

・予稿集の原案について。現在実行委員に原案を配布して確認の作業中。7月7日に開催予定のプログラム委で決定の見込み。

・会場について。会場の電力容量の問題は、実地に検討した結果、十分な供給

量があることが確認。

・全体シンポジウムについて。招待講演者の小川氏の旅費について、学会本部からの準備金 200 万円から支出するむね運営委員会の承認を得たいとの要請があった。

(9) 平成 13・14 年度委員候補者補充選挙結果 (曾我部) 資料 報 9

曾我部委員より以下の報告があった。会員による推薦の結果、前回議事録に示された 14 名が候補者となったが、候補人数不足に付き、学会委員による推薦で補充した。推薦は 5 月に行われ、会員よりの推薦 14 名、委員による推薦のうち特に推薦するもの 43 名(特に推薦された場合は必ず候補者となる。会員による推薦との重複 3 名を含む)、委員による推薦で 3 票以上獲得したもの 48 名の計 102 名を候補者として、学会誌 40 巻 3 号に選挙公告を掲載した。

桑島委員より選挙公告について、候補者の所属などで間違いが多かったことが指摘された。曾我部委員より、所属に関しては 1998 年の名簿に基づいたが、その後の移動に関して完全に把握できていなかったとの回答があった。次回選挙からこの点に注意を払うよう申し送り事項とした。

(10) 平成 13・14 年度委員、平成 13 年度次期会長選挙結果報告 (曾我部) 資料 報 10

曾我部委員より、上記の選挙公告に基づき行われた選挙について、6 月 23 日に行われた開票の結果が報告された。得票順に以下の上位 25 名が選出された(括弧内は得票数、敬称略)。

柴田 譲(45)、高橋健一(45)、宝谷紘一(35)、美宅成樹(34)、津田基之(32)、神谷 律(29)、中村春木(29)、柳田敏雄(29)、永山国昭(28)、加茂直樹(27)、真行寺千佳子(27)、藤谷 学(26)、豊島陽子(25)、七田芳則(24)、徳永万喜洋(23)、相澤慎一(22)、伊藤悦朗(22)、宇高恵子(22)、徳永史生(21)、深田吉孝(21)、有坂文雄(20)、須藤和夫(20)、赤坂一之(19)、栗原和枝(19)、広瀬恵子(19)。

ただし、もう一名得票 19 票の候補があったが、同票の 4 名の中から選挙規則に従い抽選によって上記の得票 19 票の 3 名が選出された。

続いて、上記の委員選挙と同時に行われた会長選挙について報告があった。前回運営委員会で選出された 3 名の候補者に基づいて、学会誌 40 巻 3 号に選挙公告を掲載、6 月 23 日開票。総投票数は 189 票(うち白票 11)であった。以下

の得票数から柳田 敏雄氏が次期会長に選出された(括弧内は得票数、敬称略)。

柳田敏雄(74)

津田基之(61)

石渡信一(43)

(11) 平成 13・14 年度科研費審査委員(生物物理・一般物理学)推薦について (郷)
資料 報 11

郷会長より、以下のように決定されたとの報告があった。

科研費第一段審査員候補者

「生理・機能」

曾我部正博

桐野 豊

吉田賢右

七田芳則

三木邦夫

三室 守

「構造・物性」

後藤裕児

相澤慎一

吉川信也

西川 建

城所俊一

西村善文

科研費第二段審査員候補者

阿久津秀雄

川戸 佳

物理学研連へ推薦する科研費審査委員候補者

垣谷 俊昭

今回から方式が変わり、一段審査員候補者は分野別に順位をつけて6名ずつを研連に推薦する。二段審査員候補者2名も順位を付けて推薦する。現在10名の審査員がいるが、制度変更に伴い内4名は1年で終了し、今回6名が新たに選出される。

審査員候補者推薦の経緯について以下の説明があった。審査委員候補者については4月21日開票された会員による選挙結果に基づき会長・副会長が合議により決定した。第一段審査員候補者については、(1)会員による選挙結果が判

明した時点で他研連からの推薦が先に決まっていた人、(2)現在審査員で終了直後である人、(3)年齢制限に抵触する人を除いた順位により決定した。推薦する分野については、委員による選挙の時点では分野分けされていたので、その際に推薦の多かった方の分野に割り振られている。川戸氏は同得票の中から第一段の選挙結果を考慮して決定された。

倭委員より、選挙に関する細則を HP に掲載している。現在運営委員の頁を作成中で、将来的にはパスワードの設定により運営委員に対して閲覧可となる予定との説明があった。

(12) 生物物理編集地区委員変更について (石渡) 資料 報 12(当日配布)

石渡編集実行委員長より、現中国地方編集地区委員である岩佐氏の異動にもなう委員の変更について報告があった。地区委員の途中交代に関する細則がないことから、通常の委員の選考手順に従って中川将司氏(姫工大)に依頼した。この点に関して石渡編集実行委員長から、途中交代に関する細則の必要性、および現在地区分けについて中部と近畿の境界がはっきりしていない点に関して問題提起があった。

(13) 会計監査報告 (郷) 資料 報 13

郷会長より説明があった。会計監査委員は、郷 信広氏、宝谷 紘一氏であった。平成 11 年度決算報告書が収入・支出の実体を正しく反映したものであると確認されたむね報告された。ただし、郷 信広氏より以下の指摘があった。

1. 広告収入は収入にしめる割合が高いが、安定した収入ではない。にも関わらず、平成 10、11 年度の実質支出は広告収入を大いに見込んだ額になっているのは危険ではないか。

2. 平成 7、8、9 年度と支出の引き締めに成功してきたにも関わらず、10、11 年度は支出増大の傾向を示している。これは運営委員会で慎重に討論された結果なのか？

3. 平成 11 年度の会誌出版費が急上昇しているが、運営委員会で慎重に討議された結果か？

4. 運営委員会費が予算 100 万円に対して 82 万円の赤字になっているが、支部委員の旅費を支出したことが原因でないかと思われる。総会で予算が承認された時点ではこの支出は認められていなかったと思われるが、支出することにし

た理由はなにか？

5.支出内訳によると、平成 10、11 年度支出で人件費支出が平成 7 年度の倍近くになっているが、この事態について十分な議論がされているか？

これらの点に関して郷会長より平成 11 年度決算報告(案)資料に基づき以下の説明があった。1 の項目について、これは近年学会誌など学会活動の質的向上に積極的に投資した影響が大きいと考えられる。確かに全般的に財政緊縮の必要があり、平成 12 年度予算案についても、9 月の運営委員会の前に十分検討を加える必要がある。項目 2、3 は関連しているが、学会誌に関しては紙質をよくした点が大きい。項目 4 の支部委員の旅費に関しては、今後は支出せずということで前回運営委員会で承認されている。項目 5 の人件費に関しては、予算通りの支出であり、学会秘書人件費、分野別専門委員リスト作成アルバイトなど、いずれも必要な支出であった。学会秘書について現在の仕事量からして、仕事日数を減らすことは困難であると考えられる。

(14) 第 3 回東アジア生物物理学シンポジウムについて (郷) 資料 報 14

郷会長より、上記シンポジウムの若手援助について報告があった。計 15 名の援助申し込みがあったが、結果として 11 名に援助。登録料を免除された 3 名には各 5 万円、他の 8 名には各 7 万円の援助が行われた。2002 年ブエノスアイレスで開かれる生物物理国際会議における援助用に 70 万円程度の残金がある。学会から援助した人には、感想を寄せてもらって HP などに掲載するにすることになっているが、まだ感想を寄せていない人には催促するよう要請があった。

審議事項

(1) 平成 14 年度年会開催候補地について (郷) 資料 議 1

委員へのアンケート結果から、開催地は名古屋、実行委員長は垣谷俊昭氏にお願いすることで承認された。

(2) 編集実行委員長補佐との契約について (石渡) 資料 議 2-1、2

石渡編集実行委員長より学会誌の編集補助契約の延長に関して以下の審議要

請があった。現在、記事査読後の校正などの編集補助を青山聖子さんとの契約で行ってもらっているが、本年 4 月 30 日で契約が切れている。この編集補助に対して会誌 1 号あたり 10 万円(年間 60 万円)が支払われている。契約は 4 月で切れているが、既に学会誌 3 号の仕事をしてもらっている。現在の条件での契約延長を承認して欲しいとの要請があった。

本議題は以下の議題(9)「会誌編集について」と密接に関連しているのでここで同時に議論することとした。

議題(9)に関して郷会長より資料に基づいて学会誌関連支出と予算との関係が説明された。学会誌の出版についてはここ 3 年間で約 300 万円増加している。平成 12 年度の現時点での支出から外挿すると、会誌の出版にかかる費用は予算を大幅に超過する見込みである。このままでは、少なくとも 47 万(電子化費用を含めると 170 万円)の赤字が見込まれるので、前半でオーバーした分を後半で取り返す方を講じる必要があるとの説明があった。

会誌の出版費増加の原因および対策として以下の点が指摘された。

- ・会誌の紙質が良くなったことが負担になっていると思われるので、紙質を元に戻してはどうか。
- ・ページ数が増えたことで重くなり輸送費がかさんでいる。特に最近会誌に余白が目立つ。記事の字数制限が厳しく守られるようにして、頁数を減らしてはどうか。
- ・運営委員会の報告記事が長すぎる。運営委員会報告については学会の HP に詳しい内容を掲載して、学会誌には概要のみ載せてはどうか。
- ・総説・解説の数が多すぎると思われる。これらの記事の数を減らしてはどうか。

以上の点について石渡編集実行委員長より以下の説明があった。編集反省会においても問題になっているが、近年字数制限に関しては緩和される傾向にあると認識していたので、確かにページ数・余白ともに増加傾向にある。原稿に関しては、現在数多く依頼されすぎているという認識がある。例えば昨年年会で分野別専門委員から原稿依頼の推薦を受け付けたが、これが 30 件以上たまっている。記事に関してはだぶつき気味であるとの認識であるが、原稿の依頼から実際に記事ができあがるまでの時間は通常 1 年かかるため、この傾向が直ちに改善されることは難しい。

以上の点をふまえて石渡編集実行委員長より以下の案が示された。

- ・紙質を現在のコート紙から従来の上質紙に戻す事によって 5 万円/号の節減が可能。ただし、頁数増加圧力が解消しないと効果は薄い。紙質は図の鮮明度などの点で好評であることからこのままおいておくべきかもしれない。
- ・現在ホテル機山館で行われることの多い編集会議を学士会館分館でやれば、年間約 5 万円の節減が可能。
- ・現在首都圏委員会は 3、7、11 月の 3 回行われているが、7 月の委員会を取りやめにする事で約 5 万円節減可能。
- ・委員長経費は現在 22 万/半年支出されているが、これを月 1 万程度の通信費に縮小する。
- ・編集補佐については、少なくとも来年末まで契約を延長する。
- ・解説・総説記事を 1 割程度削減して会誌の頁数を減らす。
- ・運営委員会報告を手短にする。会誌は 1 頁あたり 1.5 万円ほどかかるので効果はある。
- ・以上の項目で年間 100 万円程度の節減が可能であると思われる。

以上の案に対して以下の質疑応答があった。桑島委員より、研究会等のお知らせについては無料で載せているのかとの質問があった。原則無料であるとの回答があった。郷会長より紙質の改善に年間 190 万円使われているのではないのかとの質問があった。紙の変更による上積みは毎号 5 万円程度であるとの回答があった。郷会長より、出版費用を予算内に納めることが必要であるが、現在すべての投稿記事を掲載しているのかとの質問があり、原稿依頼するまでの段階では削っているが、依頼したものについてはすべて掲載しているとの回答があった。郷会長より年 2、3 回程度、学会誌の現状に関して運営委員会で話合う場を持つことが必要であるとの意見がだされた。石渡編集実行委員長より、近年編集実行委員会での独自の判断を行う場面が多かったと思われるので、運営委員会と密接に連絡をとりあうことが必要であるとの意見が出された。阿久津委員より編集委員会の雰囲気について、以前は運営委員会の意向に比較的忠実であり、むしろ運営委員会側に出版費用を押し上げる意見が多かったと思われるとの指摘があった。また現在、原稿数を絞っても実際減り始めるのは約 1 年後にすぎない。現在だぶついている記事を後々に回せばよいのではないのかとの意見がでた。

本寺委員より、会誌の出版が電子化されることによって現在の支出内容がど

のように変化すると期待されるか、という点について説明が不足しているとの意見が出された。石渡編集実行委員長より、電子ジャーナルでは字間など細かいことは現時点でうまくできていない部分もある。また書籍情報の検索の問題も未解決である。電子化は出版にかかる費用を最終的に押し下げると考えられるが、まだ初期投資が必要な段階である。初期投資分についての請求（システム設計等含む）がこれからくるので、9月の運営委員会までには本契約できるように努力するとの回答があった。

今運営委員会では経費節減を推進し平成12年度予算内におさめることで了承された。青山さんの編集補助契約は更新することで了承された。契約は平成12年5月1日から平成13年4月30日までの一年とする。また、年二回12月、7月の運営委員会で編集委員会の問題について議論することとした。

(3) 企業のホームページを生物物理学会のホームページにリンクする件（由良・倭・木下） 資料 議3

由良委員より、企業のホームページを生物物理学会のホームページにリンクする件に関するアンケートを運営委員を対象に行ったところ、委員の反応はおおむね前向きであったとの報告があった。

この結果を踏まえて以下の方式で学会 HP への企業リンクを行うことが提案された。リンクする企業は賛助会員のみとし、賛助会員費+リンク費用(1万円)という名目で支払いを受ける。今年度に関しては半年分であるので、リンク費用は5千円とする。賛助会員を増やす努力は経理担当運営委員を中心として委員が行う。

この件に関して木下副会長より、どのように契約をとってくるのか、また、この案では運営委員の負担が大きくなるのではないかと意見があった。豊島委員より、賛助会員はおおむね、会誌を図書館に保存するために会員になっている。しかしこの HP へのリンクは明らかに広告ととらえられるので、広告が打撃を受ける可能性大ではないか。賛助会員は会誌が電子化された時点で広告をおりる可能性があるが、との指摘があった。石渡編集実行委員長より、会誌の電子ジャーナル化の後、目次は全員に公開されるが、内容は会員のみしか閲覧できないので、かならずしもそうならないのではないかと意見があった。豊島委員より、いずれにせよ HP リンクと会誌の広告は競合必至であると思わ

れる。もし HP に広告が流れることになれば、広告の収入に依存するエー・イー企画とのかねあいが非常に難しくなる考えられるとの意見があった。木下副会長より、もし HP リンクが広告収入として主力になった場合、だれがその維持(現在エー・イー企画が行っている)に責任を持つのかとの意見があった。船津委員より、賛助会員と広告主は実際にはあまりかさなっていない、この HP リンクは広告の主力とは考えられず、むしろ賛助会員へのサービスととらえられるのとの意見が出された。桑島委員より、HP リンクを賛助会員に限っておけば、こちらが収入の主力となることはないのではないかと意見、また、他の学会でこのような例がこれまでにあるのかという質問があった。曾我部委員より、そもそもこの話の発端は、ニューバイオフィジックス出版にあたって共立出版 HP にリンクを張る話だった。出版社などはメリットが大きい。しかし他の企業ではリンクが充実して資料として使えればよいが、そこまでいくのは大変であると思われるので、企業側のメリットはそれほど高くないのではないだろうかとの意見が述べられた。

結論として、会誌広告との競合について現時点では不明であるので、今年度賛助会員費+5千円で HP リンク賛助会員を募ってしばらく動向を見ることで承認された。

(4) 平成 11 年度決算報告(案)追認 (桑島) 資料 事前郵送配布

桑島委員より、前回運営委員会報告の平成 11 年度決算案からの訂正について(事前に郵便等で運営委員に周知済み)承認要請があり、以下の通り承認された。

平成 11 年決算報告案

	収入	
11 年予算	11 年決算	
機関会員費	1,700,000	1,632,000
賛助会員費	700,000	560,000
海外会員費	140,000	131,225
一般会員費	21,000,000	21,093,000
入会金	300,000	298,000

広告収入費	6,000,000	7,029,200
雑収入	2,100,000	5,000,069
前年度繰越金	10,000,000	32,358,735
合計	41,940,000	68,102,229

支出

11 年予算

11 年決算

会誌出版費	10,100,000	10,987,565
会誌発送費	2,000,000	2,062,832
年会費	6,600,000	6,359,250
名簿作成費	500,000	500,000
委員選挙費	370,000	319,535
運営委員会費	1,000,000	1,818,475
委員会費	250,000	356,628
学術会合費	300,000	743,180
文部費	320,000	320,000
事務費	1,000,000	1,273,961
人件費	3,500,000	3,507,850
センター業務委託費	4,700,000	4,827,516
広告経費	2,000,000	1,832,548
事務局開設準備金	5,000,000	5,000,000
予備費	4,300,000	0
次年度繰越金	0	28,192,889
合計	41,940,000	68,102,229

(5) 特別会計について (桑島) 資料 議 5

桑島委員より将来事業準備金を別会計にするための案の説明があった。平成 12 年度総会で承認を得た上で、平成 13 年より学会の会計を、従来の一般事業を行うための基本会計と「生物物理学会将来事業準備金」という特別会計の 2 つにわけると。平成 13 年度には、平成 11 年度および 12 年度会計の「事務局開設準備金」1,000 万円と平成 12 年度繰越金の一部(2,000 万円) を上記特別会計

に移し会長が管理する。

この特別会計について以下の細則をもうける。

1. 生物物理学会将来事業準備金は本学会を発展させるために必要な活動で、基本会計でカバーすることの困難な事項に使う。
2. 本「準備金」特別会計は学会の基本会計と同様に、総会において予算と決算の承認を得る。
3. 既に始まっている会計年度で新たに事業を行う場合は、その年度の総会で承認を得て予算の変更を行う、ただし、緊急を要する場合は、運営委員会での議決を経て、基本会計の予備費を使って最低限の支出を行い、総会の承認を得た後に予備費の補填を含めた全面的執行を行う。
4. 毎年、基本会計と同様に会計検査を受ける。

以上の案について木下副会長より、物理学会と応用物理学会の共同出資の電子化出版費用の特別会計にたいして、純益繰り越し金とみなされ、課税対象にされているという経緯があるらしいので、この資金も名目を考えないと課税対象と見なされるのではないかと指摘があった。桑島委員より、事業を行うためにとってあるお金でも繰り越しと見なされるだろうかと、の質問があった。

木下副会長から、使用目的を明確にして置

けばよいのではないかと回答があった。郷会長より、適切な(例えば出版など)の名目を与える必要があるとの意見があった。桑島委員より、「電子出版化および事務局開設のための準備資金」との名目でどうかとの提案があった。郷会長より「電子化出版将来事業準備金」という提案があった。

石渡編集実行委員長より、出版電子化費用をこの特別会計でまかなうことは可能か、可能ならば電子化はすでに進行しているので、一部は準備金でなく明確に予算化して欲しいという要請があった。阿久津委員より、これは今年度の予算ではないので今年度分については予算化できないであろうとの回答があった。

名称は上記の案をもとに適切に変更する、細則は変更なし、9月の運営委員会までに正式議案化することで承認された。

(6) 40周年シンポジウム招待講演旅費について (郷) 資料 なし

郷会長より、今年度の年会で開催される40周年シンポジウムの招待講演者

小川先生の旅費・講演謝礼を、年会準備金から支出する件について承認の要請があった。ただし、広告が好調であれば広告収入からの支出も検討する。今回の講演にかかる費用は準備金または広告収入から支出することで了承された。

田之倉委員より、40 周年事業は原則年会と切り離して、高校生向けパンフレットなどと併せて予算を考えるべきではとの意見があった。郷会長より、40 周年事業は独自に予算化されていないとの回答があった。

阿久津委員より、現在年会準備金は 200 万円となっているが、これは学会に返さないでよいとされる額としては多すぎるのではないかと、2 年前までは 50 万円だったとの指摘があった。由良委員より、前回の年会で準備金が 200 万円とされたのは、会場が大学でなかったため、特別の措置であったとの意見があった。阿久津委員より、原則 50 万円に戻して、もし窮屈な場合は手当をする事としてはどうかとの意見があった。準備金に関しては原則以前の額に戻すこととした。

(7)PRC 事務局への援助機について (郷) 資料 議 7

郷会長より、PRC(Protein Research Communication) よりの支援要請について説明があった。

上記団体は、おもに電子メールを通じてタンパク質研究者の交流をおこなっており、1999 年 3 月末までは、文部省科研費特定研究「タンパク質立体構造の構築原理」が母体となって運営されていたが、現在ボランティアによって運営されている。PRC には昨年生物物理学会から 10 万円の援助をおこなっており、今年度も同額の援助要請があった。10 万円の援助をおこなうことで承認された。

(8) 高校生向けパンフレット (豊島・片岡) 資料 議 8

豊島委員より、生物物理の高校生向けパンフレットの配布法について以下の案が示された。

- ・全国の進学校 250 校程度をターゲットとして計 6,500 部を配布する。
- ・会誌にはさめば安く送れるので、会員全員に会誌とともに配る(この場合 2,500 部)。または、年会で少なくとも分野別専門委員に配る(この場合 500 部)。
- ・会員からの要請に応じて、高校に送付する。高校からの要請でもっと欲しい所に送る。この場合は合計で 1,000-3,000 部。
- ・雑誌で宣伝し、配布に応じる。

以上の配布にかかる費用は、全体で最大 20 万円程度と見積もられる。印刷代は全部で 10,000 部作ったとして 50 万円程度(20,000 部だと 60 万円)。見栄えを重視するとデザイナー等を雇う必要があると思われるが、その費用は 20 万円程度と見積もられるので、パンフレットにかかる総額は 90 万円と見積もられる。

パンフレットの内容について、運営委員数名、高校の先生数名に予備的に意見を聞いたところ、文章が硬い、絵がないと高校生は読まないという意見があった。字体等も明朝体は敬遠されるため、ゴシック体としたとの報告があった。

桑島委員より、原案のスケッチをみると分子レベルの話がないようだが、との質問があった。片岡委員より、高校生は分子レベルの話に拒絶反応を示すらしいので、極力分子の絵はさけた。ただし表紙には ATPase の図がはいるとの回答があった。石渡編集実行委員長より、生物物理のカバーする範囲を明確にするよりも、生物物理の目標を明確にする内容にすべきとの意見があった。また、このパンフレットに関するポスターを作った方が良いのではとの意見があった。豊島委員より、各々の高校生の手元に渡るものがよいとの意見があるとの指摘があった。曾我部委員より、高校の先生自身は生物物理という分野があることは知っているのだろうか、一番効果があるのは高校の先生が理解して折に触れて高校生に生物物理の宣伝をしてもらうことだと思われるとの意見があった。郷会長より、生物物理の最前線、ニューバイオフィジックスなどの本を学校の先生に配ってはどうかという意見が出された。

(9) 会誌編集について (郷) 資料 議 9

上記議案(2)「編集実行委員長補佐との契約について」と同時に審議されたので、上記の議事録参照のこと。

連絡事項：

第 5 回運営委員会は 9 月 11 日 (月) 昼 (年会中)、

平成 13 年度第 1 回運営委員会は 9 月 13 日 (水) 昼 (年会中) に行う。